

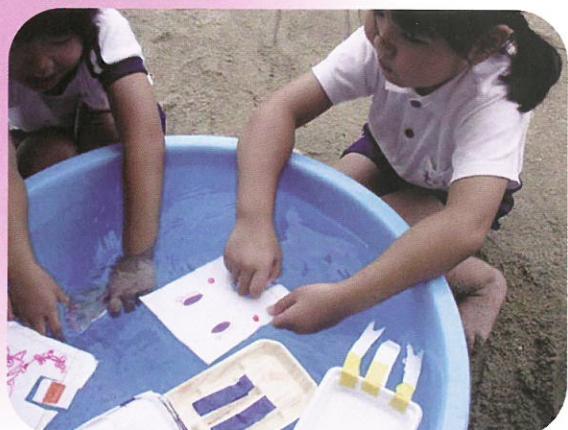
平成15・16年度 福岡市教育委員会研究指定

研究発表会要録

研究主題

イメージ豊かに活動をつくる幼児の育成

～幼児の心に響く製作活動と教師のかかわりを中心に～



平成17年2月2日（水）

福岡市立赤坂幼稚園

研究主題

イメージ豊かに活動をつくる幼児の育成

—幼児の心に響く製作活動と教師のかかわりを中心に—

I 研究の概要

1 主題設定の理由

(1) 幼稚園教育の今日的課題から

現在、我が国の教育においては、国際化、情報化、少子高齢化などの社会の変化を踏まえ、確かな学力、豊かな心を育むことが重視されている。幼稚園教育においても生きる力の基礎を培うために、「遊び」の中で自ら学び、自ら考える力を育成することが強く求められている。

幼児は、本質的に活動的で知的好奇心に満ちあふれた存在であり、大人が無理に教えこんだりしなくとも、適切な環境を与えることで、自分からかかわろうとしたり、試したり、活動したりするものである。

しかし、現状を見てみると、大人が先に立って直接的に指示を与えたり、指導したりすることが多く、幼児がイメージを豊かにし、自ら環境にかかわって活動する機会が減少してきているのではないか、という疑問をもつ。幼児が、遊びを中心とした生活を通して、身近な物や遊具に刺激を受け、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に行動する能力を高めていくことは、重要な今日的課題である。

また、平成17年1月に出された中央教育審議会答申案において、子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について、次のように述べられた。

- 幼稚園等施設において、小学校入学前の主に5歳児を対象として、幼児どうしが、教師の援助の下で、共通の目的・挑戦的な課題など、1つの目標を作り出し、協力工夫して解決していく活動を「協同的な学び」として位置付け、その取組を推奨する必要がある。
- 遊びの中での興味や関心に沿った活動から、興味や関心を生かした学びへ、さらに教科等を中心とした学習へのつながりを踏まえ、幼児期から児童期への教育への流れを意識して、幼児教育における教育内容や方法を充実する必要がある。

本主題は、幼児教育と小学校教育との接続においても、発達や学びの連続性を探る有効な手がかりになり得ると考えた。

(2) 幼稚園教育要領から

学校教育法第77条には、「幼稚園は、幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」と示されている。

また、幼稚園教育要領においては、第1章総則の中で「幼稚園教育は、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」と示されている。

幼児が自ら考え、自ら課題を見つけてかかわろうとする姿を幼稚園教育要領の【環境】及び【表現】の領域で見てみると、次のように示されている。

【環境】 周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

1 ねらい (2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。

2 内容 (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
(7) 近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。

【表現】 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

1 ねらい (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

2 内容 (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。

(5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

(7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。

上記のねらいや内容を踏まえ、今回の研究では、これまで幼児が扱いやすい素材として準備はしていたが、研究の対象とすることがなかった新聞紙や空き箱などの素材を使った「製作活動」に視点をあてて研究をすすめていきたいと考えた。

(3) 幼児の実態から

上記の幼稚園教育要領において、特に、【環境】領域のねらい(2)、内容(7)に視点をあてて、幼児が製作活動にかかわろうとする姿を3つに分けて評価した。

「自分からすすんでかかわろうとする幼児」は、「全くかかわろうとしない幼児」や「ときどきかかわろうとする幼児」に比べて、より積極的に製作活動に取組んでいることになる。

表1 製作活動にかかわる幼児の姿(平成15年5月)

幼児の姿	4歳児	5歳児
全くかかわろうとしない幼児	65.4%	26.5%
ときどきかかわろうとする幼児	23.1%	47.0%
自分からすすんでかかわろうとする幼児	11.5%	26.5%

* 4歳児52名、5歳児34名中

表1より、5歳児の5月において「自分からすすんでかかわろうとする幼児」は学級の4分の1であった。主体的に製作活動にかかわる幼児を育てていたかどうか疑問が残る。

また、幼児が主体的に製作活動にかかわる姿を観察し、遊びの内容・遊びの時間についてまとめるところになった。

午前中2時間の遊びの様子を観察し、6日間記録し、平均値をとって表を作成した。

表2 製作活動にかかわる時間(平成15年5月 4歳児 26名)

遊びの内容	遊びのべ時間(分)	全体に占める割合(%)
戸外	固定遊具	1920
	砂場遊び	7680
	マルチパネ	3000
	その他	
室内	製作活動	1600
	折り紙	760
	粘土	3000
	ままごと	760
	その他	

表3 製作活動にかかる時間 (平成15年5月 5歳児 34名)

遊びの内容	遊びの時間(分)	全体に占める割合(%)
戸外	固定遊具	4500
	砂場遊び	4440
	マルチパネ	
	サッカー	
	その他	
室内	製作活動	1200
	折り紙	60
	お手玉、あやとり	1260
	粘土	240
	ままごと	1875
	縄跳び	480
	絵描き	120
	まりつき	225
	その他	10080
		41.2

表2・3より、幼児が製作活動にかかる時間は、全体の遊びに対して少ないことがわかる。これは、製作活動に特定の幼児がかかわっており、つくること中心で遊びが長い時間続かないことが原因と考えられる。

また年長児においては、製作活動にかかる時間も減少していくことがわかった。これは、遊びが多様に展開され、遊びの種類が増えてくるため、製作活動にかかる時間が減少したと考えられる。

教師は、幼児が様々な対象と十分にかかわり合えるようにすることが大切であるとわかっていても、詳細な遊びの実態を把握していないために十分な援助ができないのが現状である。

(4) 本園の指導計画から

本園では、指導計画に基づき、月や週の計画を立案しているが、“製作活動”に視点をあてて、もう一度見直してみると次のようにした。

“ねらい”と“内容”を期ごとに抽出してみると次のようになる。

表4 指導計画 (ねらい及び内容)

1 期 へ 4 歳 児 .. 4 月 ▽ 内 容	ね ら い	○ 自分のクラスやトイレなどの場所がわかり、幼稚園に安心感をもつ。
		○ 教師や友達と触れ合い、徐々に安定する。
		○ 身の回りの遊具や動植物に興味や関心をもつ。
		○ 教師や友達の言葉や話に耳を傾け、聞こうとする。
		○ 教師や友達と一緒に歌ったり、手遊びをしたりする。
10 期 へ 5 歳 児 .. 3 月 ▽ 内 容	ね ら い	健康 ○ 所持品の始末、片づけ、食事の仕方などを知り、幼稚園生活に親しみをもつ。
		人間関係 ○ 教師や友達と触れ合ったり、言葉を交わしたり、一緒に遊んだりする。
		環境 ○ 親しみのある固定遊具、積み木、ままごと、砂・土・木などを使って遊ぶ。
		○ 園内外の動植物を見たり、触れたりして遊ぶ。

2 期 へ 4 歳 児 .. 6 月 ▽ 内 容	言葉	○ 教師の話や絵本や紙芝居に興味をもち、見たり聞いたりする。
		○ 喜んであいさつをしたり、言葉に興味をもったりする。
	表現	○ 好きな絵を描いたり、粘土で遊んだりする。
		○ 教師や友達と一緒に知っている歌を歌ったり、手遊びをしたりする。
		○ 片づけや弁当の準備が分かり、自分からしようとする。
		○ 友達の様子に关心をもち、一緒に遊ぼうとする。
		○ 自分の好きな遊びを見つけ、身の回りの環境に親しんでいく。
		○ あいさつを自分からしようとする。
		○ リズムに合わせて歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。
		健康 ○ 汚したり、ぬらしたりした衣服は自分で着替えようとする。
	人間関係	○ 友達と同じ遊びをしたり、同じ場所で遊んだりして友達とかかわる。
		○ 園内の草花を使って遊んだり、小さな生き物に触れたりして遊ぶ。
		○ 親しみをもってあいさつしたり、したいこと、してほしいことわからないうことなどを言葉で表現する。
	表現	○ 身近な素材や用具を使って、描いたり、作ったりすることを楽しむ。
		○ リズムに合わせて歌ったり、体を動かしたり、楽器をならしたりして遊ぶ。

3期～9期は省略

10 期 へ 5 歳 児 .. 3 月 ▽ 内 容	ね ら い	○ 1年生になるという自覚をもち、自分でできることは自分でできる。
		○ 同じ目的に向かって、学級の友達と一緒に協力して物事をやり遂げる。
		○ 冬の自然に触れ、観察したり工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。
		○ 文字や絵などで伝える楽しさを味わいながら、教師や友達と心を通わせる。
		○ 様々な出来事の中で感動したことを伝え合い、表現する楽しさを味わう。
	健康	○ 寒さに負けず、戸外で凧揚げやこま回しをしたり、集団での運動遊びを楽しむ。
		○ 共通の目的に向かって、一人一人の力を認め合い、協力していろいろな活動に意欲的に取り組む。
		○ 赤坂小学校との交流を通して、1年生になるという期待や自覚をもつ。
		○ 身近な自然に触れ、冬の自然現象（雪、氷、つららなど）に親しみ、不思議さに気付いたり、春の訪れに興味や関心をもったりする。
		○ 正月遊びや郵便ごっこなどで文字や数字を使いながら、思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わったり、言葉の楽しさや美しさに気付いたりする。
	人間関係	○ 幼稚園生活を振り返り、言葉や絵などで自分なりの表現を楽しむ。
		○ 赤坂小学校との交流を通して、1年生になるという期待や自覚をもつ。
	環境	○ 身近な自然に触れ、冬の自然現象（雪、氷、つららなど）に親しみ、不思議さに気付いたり、春の訪れに興味や関心をもったりする。
		○ 正月遊びや郵便ごっこなどで文字や数字を使いながら、思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わったり、言葉の楽しさや美しさに気付いたりする。
	言葉	○ 正月遊びや郵便ごっこなどで文字や数字を使いながら、思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わったり、言葉の楽しさや美しさに気付いたりする。
		○ 幼稚園生活を振り返り、言葉や絵などで自分なりの表現を楽しむ。
	表現	○ 幼稚園生活を振り返り、言葉や絵などで自分なりの表現を楽しむ。
		○ 正月遊びや郵便ごっこなどで文字や数字を使いながら、思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わったり、言葉の楽しさや美しさに気付いたりする。

1期から10期までをみてみると，“ねらい”に関する項目50に対して、研究主題に関する項目は、4であった。また，“内容”に関する項目67に対して、身近な遊具や用具を使った遊びに関する項目は、8であった。

特に、【環境】領域においては、自然環境に関する内容は多いが、身近な遊具に関する内容が少なく、月や週の計画を立てる際に、環境構成や教師の援助が具体化しにくいという問題点が残った。より細かな計画を立てるために、製作活動に関する年間計画表を作成することが必要であると考えた。

(5) 本園の研究の経過から

本園では、これまでの研究において、様々な遊びの中での「環境構成の工夫」「教師の援助の在り方」について検討を加え、その内容を少しづつ高めてきたところである。日々の保育の充実をめざし、幼児が楽しく遊ぶことのできる環境を様々な活動場面を予想して整えてきた。

しかし、幼児の心に響く環境となっていたか、またそれを保育の中にどう生かそうとしていたか、教師の援助は十分であったか、という反省点にたった。

2年間の幼稚園生活修了までのなかで、いろいろな経験をさせたいと願っているが、指導計画の中には位置付けていても、教師の援助の在り方が曖昧であったり、教師のかかわり方に計画性がなかったり、特定の幼児へのかかわりだけに終わったりする場合がある。

また、教師間で保育内容について十分に共通理解がなされていなかったことから、教師が学級の環境を整える上で差異が生じたり、幼児の発達段階をふまえた指導が十分になされていなかった実態もある。

平成15・16年度は、身近な物や遊具を使った遊びの中でも、特に「製作活動」にしぼって研究をすすめ、その中で、幼児が自分なりに考えたり、試したりする姿を追いかながら様々な表現を楽しむことができる力を育てていきたいと考えた。

2 研究主題の基本的な考え方

(1) 主題についての考え方

①「イメージ豊かに」とは

単に具体的な事物についてのイメージだけではなく、幼児が心の内容として意識している多様なものすべてをイメージとする。よって、日々の保育の中で幼児が経験することが、イメージとして心の中に蓄積されていくことになる。言い換ればイメージが豊かであるほど、活動をつくることの内容も豊富になっていくといえる。

幼児は身近な物や遊具で活動しながら、そのイメージを豊かにし、活動を重ねることでさらに活動のイメージをより豊かにしていくと考えられる。

②「活動をつくる」とは

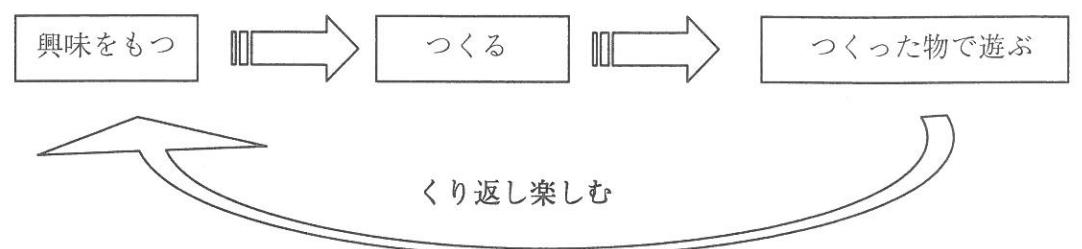
今まで何気なく接していた物に関心が寄せられ、自分なりにイメージした物をつくり、つくれた物で遊んだり、こわしてまたつくりなおしたりすることによって、幼児は、物の見方、考え方、扱い方がより確かなものになっていく過程を歩むものである。

本研究では“つくる”ことを〔作る、創る、造る、模倣する、料理する・・・など〕多義にとらえることとする。

製作活動において、幼児が活動をつくる過程を見てみると、次のようになる。

興味をもつ	物事にひきつけられる。面白いと感じる。
つくる	材料にあれこれ手を加えて目的の物をこしらえ出す。
つくれた物で遊ぶ	こしらえた物を使って遊ぶ。
くり返し楽しむ	同じことを何回もして、楽しく思う。

幼児が、イメージ豊かに活動をつくるためには、直接体験ができるだけ増やし、それをくり返し楽しむことが重要となる。



このことが幼児のニーズを満たし、自ら成長したいという意欲を喚起し、心に響く製作活動を生むことになる。

従来の指導計画や保育内容を幼稚園教育要領の「ねらい・内容」と照らし合わせていくながれ、「子どもたちの現状、問題点は何か」「どのような改善が可能なのか」「どのような教師のかかわりが必要なのか」を見直し・改善をすすめ、教師のかかわりを具体化していきたい。

(2) 副主題についての考え方

①「幼児の心に響く製作活動」とは

本研究では、幼児が自分のイメージで遊ぶ物をつくる素材および用具、また自分でつくれた物（遊びに使う物）を身近な物や遊具としてとらえることにする。

おもに取り上げた素材として空き箱や空き容器などのリサイクル品がある。これらの物は、次のような特性が考えられる。

- ・素材に触れ、遊んでいるうちにイメージがわき、物がつくられる。
- ・素材の色や形などから生まれるイメージが多様である。
- ・素材が幼児の発達に即している。
- ・物の大切さや価値に着目できる。
- ・出来ばえに差がない。
- ・入手が容易である。
- ・危険性がない。

こうした理由から、本園では製作活動に必要な物を、次のように整理してみた。

○素材・・・紙、新聞紙、広告紙、空き箱、空き容器、段ボール、布など

○用具・・・のり、はさみ、セロハンテープ、パンチ、ホッチキスなど

これらの素材や用具を使って、「幼児の心に響く製作活動」とするために、製作活動の過程（興味をもつ→つくる→つくれた物で遊ぶ→くり返し楽しむ）を大切にしていきたいと考えた。

②「教師のかかわり」とは

本研究では、「教師のかかわり」を幼児の心に響く製作活動を支える2つの側面としてとらえている。

1つは環境の構成、もう1つは教師の援助である。それを具体的に表すと次のようになる。

表5 教師のかかわりを支える二つの側面

教師のかかわり	環境の構成の工夫	素材の工夫	・どんな素材 ・どのくらいの大きさ ・どのくらいの量
		用具の工夫	・何をつかって (個人所有・共有物) ・どのくらいの量
		場の工夫	・どこに ・何を ・どのように
	教師の援助の工夫	計画的・積極的な援助の工夫	・年間計画表の活用 ・サンプルの提示
		つくる過程を大切にする工夫	・適切な言葉かけ ・個人カルテの活用

これらのためには、幼児の実態や発達過程を把握し、一人一人への理解を深めるとともに、幼児と教師相互の信頼関係をつくりあげることが大切といえる。

(3) 本研究を支える保育の考え方

①「くり返し楽しむ」こと

幼児は、豊かな直接体験を重ねることによって、より豊かな活動をつくることができるようになる。本研究では、製作活動の過程（興味をもつ→つくる→つくったもので遊ぶ→くり返し楽しむ）に着目し、くり返し楽しむための内容や方法について検討を重ねた。

幼稚園の中で一人または友達と一緒にくり返し楽しむだけではなく、幼稚園でつくった物を家庭に持ち帰って、家人と楽しむ、赤坂小学校の児童や地域のお年寄りとの交流においてまた楽しむなど、幼稚園の指導計画の中に位置づけられた行事や活動を見直し、無理のない計画の中で、少しずつ改善し、くり返し楽しむ機会を増やしていくことが大切であると考えた。

②「協同的な学び」について

中央教育審議会により平成17年1月26日に出された「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申案）」で、小学校教育との連携・接続の強化・改善が求められる中、本園では、「協同的な学び」を次のようにとらえた。

幼稚園での遊びの中から生まれる「学び」から小学校での教科等の「学習」へのつながりを意識し、教師が適切なかかわりをもつことによって、学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実させていくことができる。

よって、「協同的な学び」の姿を目的的に求めるのではなく、「イメージ豊かに活動をつくる幼児」を育てていく過程において、教師が適切な環境の構成や教師の援助をくり返すことで、「協同的な学び」の姿が見られるように教育の内容や方法を充実させていくことが重要と考える。

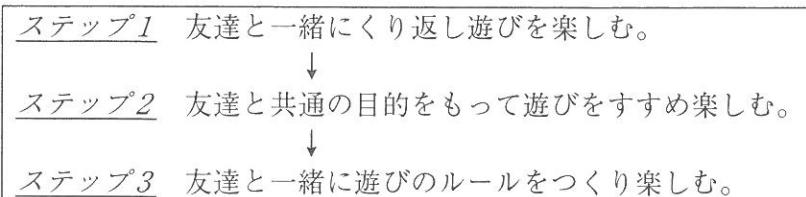
次にあげる表は、幼稚園教育要領における5領域の、特に【環境】【表現】領域のねらいや内容と、小学校学習指導要領における【生活科】【図画工作科】の目標や内容のつながりを示したものである。

表6 幼稚園教育要領と学習指導要領のつながり

幼稚園		小学校【第1学年及び第2学年】	生活科
環境	1 ねらい (2) 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 2 内容 (2) 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。	1 目標 (3) 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉、絵、動作、劇化などにより表現できるようする。	
表現	1 ねらい (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 2 内容 (3) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたりつくったりする。 (4) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。 (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。	1 内容 (6) 身の回りの自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを工夫し、みんなで遊びを楽しむことができるようする。	図工
		2 内容 A 表現 (1) 材料をもとにして、楽しい造形活動をするようする。 ア 身近な自然物や人工の材料の形や色などに関心をもち、体全体の感覚を働かせて、思いついたことを楽しく表すこと。 イ 土、木、紙など扱いやすい材料を使い、それらを並べる、つなぐ、積むなど体全体を働かせて造形遊びをすること。 (2) 感じたことや想像したことなどを絵や立体に表したり、つくりたいものをつくりたりするようする。 ア 表したいことを進んで見付け、好きな色を選んだり、いろいろな形を作り楽しんだり、つくり方を考えるなどしながら思いのままに表すこと。 イ 表したいことに合わせて、粘土、厚紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類などの身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使い、絵や立体に表したり、つくりたいものをつくりたりすること。 B 鑑賞 (1) かいたり、つくったりしたものを見ることに関心をもつようする。 ア 自分たちの作品の形や色、表し方の面白さなどに気付くなどして、見ることに関心をもつようすること。 イ 身近な材料に触れ、その感じについて話したり、友人の作品の表したかった気持ちを聞いたりするなどして楽しむこと。	

6 研究構想図

これらのつながりを意識しながら、本園では、おもに小学校入学前の5歳児を対象にして、製作活動における幼児の姿を次の3つのステップでとらえ、「協同的な学び」の姿として見ていくことにした。



3 研究のねらい

イメージ豊かに活動をつくる幼児を育てるために、製作活動を通して、興味をもったり、つくれたり、つくったもので遊んだり、くり返し楽しむことができるような教師のかかわりを究明する。

4 研究の内容と方法

幼児が製作活動に積極的に取組むことができるよう、次の4点について内容や方法を検討する。

- 幼児が製作活動を楽しむことができるよう製作活動の年間計画表を作成する。
- 幼児が製作活動をしやすい環境の構成を工夫する。
- 幼児が主体的に製作活動にかかわることができるよう教師の援助を工夫する。
- 幼児が製作活動にかかわる姿をとらえ（個人カルテの作成）、活動の評価基準とする。

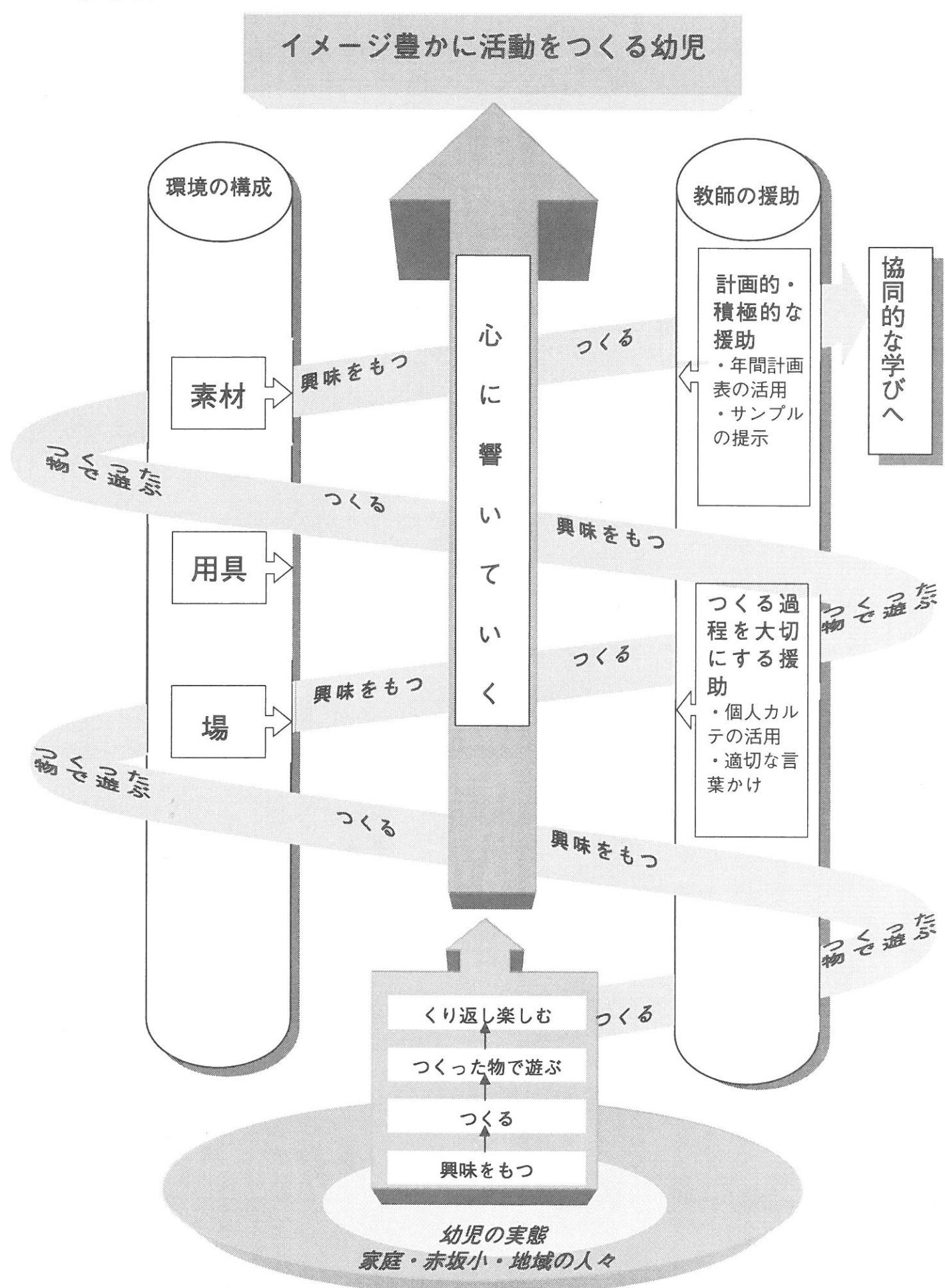
5 研究の計画

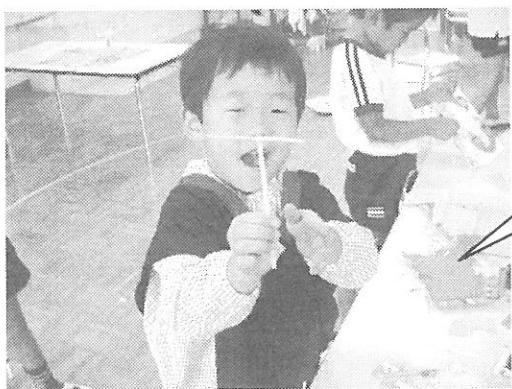
○ 1年次（平成15年度）

- ・ 研究主題、研究の内容、方法について共通理解を図る。
- ・ 幼児の遊びの実態を把握し、これまでの保育内容の課題を明らかにする。
- ・ 製作活動をするための環境の構成について協議を重ねる。
- ・ 製作活動を中心に教材研究をする。
- ・ 幼児が興味をもったり、つくれたり、つくった物で遊んだりする姿を分類し、段階的にとらえる。
- ・ 製作活動を中心にした遊びの年間計画表を作成する。

○ 2年次（平成16年度）

- ・ 前年度の研究の成果と課題から、本年度の研究課題を明らかにする。
- ・ 年間計画の見直し、修正をする。
- ・ 製作活動をするための教師の援助について協議を重ねる。
- ・ 幼児がイメージ豊かに活動をつくることができた姿を整理し評価する。
- ・ 研究発表会の資料を作成する。
- ・ 研究発表会を実施し、研究主題にそった研究保育を行うとともに、環境構成の在り方や教師のかかわりについて、研究の成果を問う。
- ・ 2年間の研究の成果および課題を明らかにし、次年度の研究につなぐ。





興味をもつ

つくる



つくった物で遊ぶ



くり返し楽しむ

協同的な学びへ

